第 2016-11 号

恵みと真理のニュース

2016 年 3 月の二次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

長い歳月見守ってくださった神様、苦難に受ける時によって恵を与えてくださった神様に感謝と賛美を捧げます

日本による植民地時代でソンサンの小さい村で生まれ学びの機会を持つことが出来ないまま、幼い時代をすごしました。家庭は儒教思想が強くて伝統に守る熱心があったので教会を行きたい思いだけありました。

家から近い村で嫁に行きました。旦那は優しくて真面目である程度、畑を持っている農夫でした。姑は早く一人になり教会にたまに通っていました。姑は病気を患っているなか教会で神様の恵みで癒された後、偶像崇拝した事を捨て祭祀も礼拝に変えました。他の家族は主日礼拝だけ参席しました。

農業する事と嫁入り暮らしは苦しかったです。主日に姑と共に教会に行きたくて小姑をはじめ親戚などの多くの家事と農業をしなければならなかったです。新婚の時には自分の意志と違って熱心に信仰生活をすることが出来ませんでした。そうするうちに教会でリバイバル聖会が開かれ何はさて置き参加して御言葉と聖霊の恵を受けたことが大きい転換点になりました。

その後、何のことがあっても主日は子供と共に必ず礼拝に行って区域礼拝も捧げついに聖徒らしい生活をするようになりました。

小姑と義弟も離れて姑も亡くなって旦那は全ての土地を売って金物屋を開きました。私は何より教会が近くてもっと熱心に教会生活が出来て幸せでした。子供達も成長し特に長男の勉強のためインチョンで引越ししました。リバイバル聖会を導いていた牧師が担当する教会がインチョンであってそこで信仰生活をすることが出来ました。

ところが平安が長く続かなかったです。旦那が肺癌になったことを知るようになったし、その時は手術さえできないほど酷くて病院の治療も諦めて退院しました。退院したまもなく旦那が私にヨハネの黙示録3章5節を探しなさいと言われました。

“　勝利を得る者は、このように白い衣を着せられる。わたしは、彼の名を決して命の書から消すことはなく、彼の名を父の前と天使たちの前で公に言い表す。”

私は“旦那がこの世と離れて天国に行くのだ。”と直感しました。そして何日後、神様に召されました。長女が26歳二番目の息子が24歳三番目の息子が22歳末子が高校3年生の時でした。家の家長だった旦那がいなくなって全ての家族が悲しみに落ちましたが神様を信じる信仰で乗り越えました。

神様の恵みで長女が良い人に出会って結婚して長男が軍隊の勤務をしながら米屋をして私も手伝いました。二番目の息子は除隊して私を手伝って働きました。旦那の空席を子供達が回しながら働いて暮らせました。神様に委ねて祈り助けてくださる恵を受け、信仰が深くなり成長しました。

私も執事の職分を受け続けて勧士の職分も受けました。長男が結婚してソウルで引越ししたこのアンサンで会社を移して家も引越しました。もっと熱心に教会中心で生活しようと思って教会を探しましたが、家の近くに恵と真理教会が見えたのがアンサン聖殿でした。そのように遠くても自分の人生のかけて支える教会を会いました。神様の摂理に感謝します。

はじめは息子がまだ大学生で学費のため職場を通っていながら奉仕をすることが出来ませんでした。子供達がみんな結婚してから主の事に献身することが出来ました。その時から聖歌隊で奉仕し様々な奉仕も自分なりに最善を尽くしています。

私の人生で一番悲しかった事は2006年二番目の息子が急に病気に患って私より早く天国に行った事です。私と家族皆が一時期息子と離れた悲しみで大変でした。信仰でも乗り越えませんでした。主を恨みました。しかし、主は息子と再び会う日を規約して希望の中で悲しみを克服して熱心に生きるように慰めと平安を与えてくださいました。

礼拝をして奉仕と祈りをする時に心霊な助けを与えて下さり新しい力も下さいました。神様に感謝します。

私が今年、85歳になりました。長女は勧士と婿は長老の職任で教会を仕えていて、末子は相変わらず信仰生活をしていて私は嬉しいです。真面目で長男の家族が信仰生活に揺れが酷くて私は切ないです。

長男の家族が純粋で熱い信仰が回復されるように、旦那がいない二番目の嫁と孫達には主の導きの中でいつも健康で平安に生きるように祈っています。いつも足りなくて弱い信仰告白ですが、私の証を通して神様に栄光を捧げ自分の願いと祈りが答えられることを信じます。

［信仰コラム］

発展のための賢い姿勢

”...後のものを忘れ、前のものに向かってからだを伸ばしつつ、目標を目ざして走り、キリスト.イエスにおいて上に召して下さる神の賞与を得ようと努めているのである。”（フィリッポ３章１３、１４）

過去は現在に戻すことはできないが、過去のことは現在と未来に相当な影響を与えます。現在の生活は常に過去と未来が前提されています。

発展する生活をするためには過去を整理することと未来を計画することを賢くしなければなりません。本文は発展のための賢い生活姿勢について優れている見本です。

第一、過去のことをよく整理しながら生きていくべきです。

すなわち後のものは忘れるべきです。’忘れ’という意味は記憶してはならないという意味以上の”過去に執着してはならない。過去のことを良く整理すべき”という意味です。一つ、対人関係で発生した好ましくないことはなるべく早く許しを求めたり、許してあげるべきです。”わたしたちに負債のある者をゆるしましたように、わたしたちの負債をもおゆるしください。”というお祈りをはばかりなくするようにしなければなりません。二つ、神様の前で悔い改めることを見送らずに直ちに悔い改めるべきです。神様は人の弱さをご存じであるので神様の哀れみを求める者を払いません。そして、悔い改める者を重ねて許してくださいます。誰でもイエスキリストについて正しく分かって信じると悔い改めた人になり救いを得るようになります。そして、救いを得た聖徒の悔い改めは聖徒のように生活できなかったことに対することです。聖徒ではないように行ったことは重いことと絡むことになり信仰生活の発展を阻む要因になります。万が一、同一な罪を重ねて犯しても聖徒は悔い改めることを諦めないようにしなければなりません。三つ、悲しみと苦痛、損失になるようにしたことについて肯定的な意味を付与してください。既に起きてしまったことに肯定的な意味を付与することは過去を良く整理する賢い方法です。

これに加えて、過去のことに注意すべきことがあります。一、後悔がある過去のことと忘れたい過去のことから教訓を良く整理して銘記し、鏡と警戒に扱うべきです。二、過去の光栄に陶酔され自慢したり足下を見られるようなことが起きないようにすべきです。過去の中で神様の恵みを受けて得た成功と勝利、美しくて喜ばしかったことは回想しながら感謝すべきです。ただ、それに執着しすぎて発展的な変化に支障を与えないようにしなければなりません。

第二は、明日に向いて目標を立て最善を尽くすべきです。

現在の状態に満足する態度は肯定的な面と否定的な面があります。変化が必要なのに”このままで良いです。”と言い現実に安住することは発展を阻む誤った満足です。その反面、肯定的な満足もあります。そのような満足についてフィリッポの４章 11 節から１２節まで良く表れています。”わたしは、どんな境遇にあっても、足ることを学んだ。わたしは貧に処する道を知っており、富におる道も知っている。わたしは、飽くことにも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、ありとあらゆる境遇に処する秘けつを心得ている。”満足できることは聖徒らしい生活の知恵であり健康な心です。しかし、聖徒は現在に満足しながらも叶えようとする明日の目標を持つべきです。”心に描きながら追求する目標”があるべきです。また、到達しようとする目標を立てたならその規模と達成期限や達成方案を明らかにして具体化すべきです。そうすることで効率的に努力することが可能になり神様の助け求めるお祈りも明らかにできます。

聖徒は社会生活の発展に必要な目標と共に神霊な生活の目標を必ず持つべきです。礼拝生活に対する目標、聖書読みに対する目標、伝道に対する目標、奉仕に対する目標、献金に対する目標を立ててください。また、聖徒らしい教養と品位を表す話しをする目標、神様に向いてそして、他人に感謝をたくさん話すよう目標を立ててください。皆さんは全ての生活が天国で享受する光栄と密接な関連を持っているという事実を考えて過去のことを良く整理し、明日に向いて確実な目標を立て、今日を最善を尽くして生きていってください。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

キリスト十字架の敵対

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

皆さんの中にはある人のために涙を流しながら言って見たことがある方がいるでしょう。 誰かのために涙を流しながら言うことは甚だしく悲しんで本当をつくして懇切に言うことを意味します。 パウロ使徒は言うのを “キリストの十字架に敵対して歩いている者が多いからである。わたしは、彼らのことをしばしばあなたがたに話したが、今また涙を流して語る。ピリピ人への手紙，３：１８）” としました。 パウロ使徒は彼が心焦がれる心で涙を流して重ね重ね言うようになった理由を明らかにしました。 多くの人々がキリスト十字架の敵対に行うからであると言いました。
今日はキリスト十字架の敵対に行う人々がだれかと彼らの生の特徴と結末に関してよく見ます。

先ず、‘キリスト十字架’とは何を意味するかをよく見ます。

‘キリスト十字架’の敵対に行う人々が誰なのかを分かろうとすれば、‘キリスト十字架’と形容されたお話の意味が分からなければなりません。 ここで言う ‘キリスト十字架’とはイエスキリストが罪人の罪を代わりに担当して十字架に釘付けられて死んだことを言います。 それではこれから、キリスト十字架の敵対に行う人々が誰なのかを見知ります。

第一は、律法主義者がキリスト十字架の敵対に行う人々です。

本文が記録されたピリピ人への手紙，3 章 2 節に “あの犬どもを警戒しなさい。悪い働き人たちを警戒しなさい。肉に割礼の傷をつけている人たちを警戒しなさい。”と記録されました。 律法主義者を示して ‘犬’ ‘悪い働きする者等’ ‘肉に割礼だ’という過激な表現が使われました。 そしてこんな者等を ‘つつしみなさい’と言う言葉を三度や繰り返して厳重に警戒の命令をしました。 律法主義とは義のある事になろうとすれば律法を守らなければならないという教えることです。 他に言って自分の義のある行為で救いを得ようと思うことを意味します。 パウロはこれを示して ‘肉体を信頼すること’と表現しました。 ここに使う ‘肉体’という言葉の意味は救いの条件にする人間の血統、家門、人柄、能力、行為などを包括しています。
パウロは肉体の条件が救いを得るのにどんな価値が必要ないのを次のように表現しました。 “しかし、わたしにとって益であったこれらのものを、キリストのゆえに損と思うようになった。わたしは、更に進んで、わたしの主キリスト・イエスを知る知識の絶大な価値のゆえに、いっさいのものを損と思っている。キリストのゆえに、わたしはすべてを失ったが、それらのものを、ふん土のように思っている。それは、わたしがキリストを得るためであり、律法による自分の義ではなく、キリストを信じる信仰による義、すなわち、信仰に基く神からの義を受けて、キリストのうちに自分を見いだすようになるためである。”（ピリピ人への手紙，3:7～9）. 人が義のあるようになることは神様から始まったことであって人から始まるのではないです。 神様からイエスキリストにあってくださる恵みでよるのです。 イエスキリストが私たちの罪を担当して十字架に釘付けられる事ができなくてはたまらなかったです。 そして復活したし神様の右に座りました。 これを信じるすべての人が罪の赦しを受けて義のあるようになります。 この知識よりもっと貴重な知識はないです。 今日もパウロ当時のように律法主義者の教訓が絶えず教会で侵透しています。 律法を守ると救いを得ると教える人々、人間の努力と行為で救いを得ると教える人々はキリスト十字架の敵対に行う者です。

二番目は、私たちが罪を犯さなかったと言う人々はキリスト十字架の 敵対に行う人々です。

“神様の前ですべての人が罪人であると言うことは宗教が作り上げた虚荒された話だ。” と主張する人々がいます。 “神は存在しない。だから人間が罪人というのは妄想に過ぎない。”と言う人々もいます。 このような主張をすることは罪を加える行為です。 ヨハネの第一の手紙 1 章 10 節にその事実をこんなに指摘しています。 “もし、罪を犯したことがないと言うなら、それは神を偽り者とするのであって、神の言はわたしたちのうちにない。” 人は罪人ではないと言えば神様を偽り者とすることであると言いました。 聖書は聖霊の感動を受けられた人々が神様から受けて言ったのです。このような聖書に記録されるのを “それは、イエス・キリストを信じる信仰による神の義であって、すべて信じる人に与えられるものである。そこにはなんらの差別もない。すなわち、すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなっており、”（ローマ人への手紙，3:22,23）としました。 そうなのに “人間は罪人ではない。” “私は罪を犯さなかった。” “私は宗教的な行為と善良な行為で義人になった。” と主張したら神様を偽り者に規定する途方もない罪を犯すのです。 それだけではなくイエスキリストが罪人を救いしようと十字架のあがないの恵みを不名誉にさせる行為です。 キリスト十字架の敵対に行うのです。
ヨハネの第一の手紙 5 章 10 節に記録されるのを “神の子を信じる者は、自分のうちにこのあかしを持っている。神を信じない者は、神を偽り者とする。神が御子についてあかしせられたそのあかしを、信じていないからである。”と言いました。 神様がその息子に関して証言なさったことが何ですか? 11 節と 12 節にこんなに説明しました。 “そのあかしとは、神が永遠のいのちをわたしたちに賜わり、かつ、そのいのちが御子のうちにあるということである。御子を持つ者はいのちを持ち、神の御子を持たない者はいのちを持っていない。” 神様はイエスキリストに関して証言なさいました。 永生は神様のイエスキリストにあることであり、イエスキリストを迎接した者外には永生がないと神様がおっしゃいました。 だから永生とイエスキリストを信じることは分離することができないです。

それなのに十字架に釘を打たれたイエスキリスト外にも ‘匿名のキリスト’があると主張する者がいます。 すべての宗教に救いがあると主張する者があります。 これらの行為は神様がイエスキリストを世の中に送って十字架に釘付けられる事ができなくてはたまらないようにしたことで見做すのです。 このような行為をする者はキリスト十字架の敵対に行うのです。

次は、キリスト十字架の敵対に行う者の生活特徴とその結末に対してよく見ます。

本文に記録されるのを “彼らの最後は滅びである。彼らの神はその腹、彼らの栄光はその恥、彼らの思いは地上のことである。”（ピリピ人への手紙，3:19）としました。 救いに至る唯一の道はキリストの十字架のあがないの恵みを拒否する者の最後の結末は永遠な地獄に落ちる滅亡です。 お腹を神で思うということは肉身の欲望を満たすのが生の目的ななったことを示します。 キリスト十字架の敵対に行う人は肉身の欲望を成就することができたら福音を間違って言うのが例事になります。 また神様の国で恥になることを考慮しないで世の中で有益になったらむしろそれを誇らしく思って光栄にします。 キリスト十字架の敵対に行う人々はこの俗事と楽しみを優先順位にします。 キリストの再臨を慕う心がないです。 天国で享受する賞と光栄に対して関心がないです。 昼と夜にこの世の仕事を思います。 この世の中で富裕栄華を享受する事に没頭します。 もし皆さんの中でこんな特徴を持っている方がいたら我に返らなければなりません。 悔い改めなければなりません。 キリスト十字架の敵対に行っているからです。 キリスト十字架の敵対に行う人は神様を偽り者にする罪を犯しています。
すべての人をキリスト十字架の敵対に行う人とキリスト十字架を誇ると思う人、こんなに二つの部類で分けることができます。 十字架に釘を打たれたキリストによる救いの恵みの中で住む皆さんは次のように言うのが適当です。 “私には私たちの主イエスキリストの十字架外に決して誇ることがないです。 キリストが十字架を負うことをはばかることに思う人々がいて愚鈍なことで思う人々がいるが私には十字架の道が神様の能力であり神様の知恵です。 私は十字架に釘付けられたキリストを広く伝えるために暮しています。”

聖徒の皆さんはキリスト十字架の敵対に行う者を見る時パウロ使徒のように涙を流して心焦がれる心を持ってください。 そして十字架に釘付けられて死んで墓から復活したイエスキリストの所に彼らを導く事につくしてください。 このような聖徒を向けて今日の本文にはこんなに記録しておきました。 “しかし、わたしたちの国籍は天にある。そこから、救主、主イエス・キリストのこられるのを、わたしたちは待ち望んでいる。彼は、万物をご自身に従わせうる力の働きによって、わたしたちの卑しいからだを、ご自身の栄光のからだと同じかたちに変えて下さるであろう。”（ピリピ人への手紙，3:20,21）. このように光栄な変化は私たちの罪をあがないしようと十字架に釘付けられて死んだイエス様を迎接したすべての聖徒が経験するようになるでしょう。 皆さん皆がその光栄に参加するように願いします。